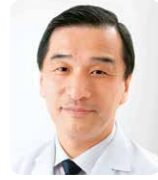


# 命に関わる危険もある 無自覚性低血糖

担当医



久保 明先生

医学博士 糖尿病内分泌専門医  
医療法人財団百葉の会 銀座医院  
院長補佐・抗加齢センター長

突然低血糖に陥り、意識を失ってしまうBさんのケース

患者氏名	B・K 様	年齢	38歳	性別	女性	現病歴	糖尿病
------	-------	----	-----	----	----	-----	-----

Bさんは13歳という若年で糖尿病を発症され、1日35単位のインスリン治療を長く続けておられます。現在は血糖値が130〜170mg/dL、ヘモグロビンA1cは7.5%前後で推移しており、とくに大きな合併症はありません。

ところが数年前から、何の前兆もなく血糖値が急激に下がる「無自覚性低血糖」が起こるようになりました。ウォーキングや買い物の中にいきなり意識を失って倒れてしまうのです。低血糖はインスリンや血糖降下剤などの薬

物治療中の方に見られる副作用です。薬の作用が強く出た場合に起こりやすく、血糖値がおよそ70mg/dL以下になると通常は脈が速くなる、手指が震えるなどの自覚症状が表れます。

自覚症状が出た場合は、すみやかにブドウ糖あるいはブドウ糖を含む飲料水を補給することで低血糖は改善します。しかし、Bさんのような無自覚性低血糖は対処が難しいため、突然昏睡状態に陥ってしまうことがあります。これは大変危険な状態

で、命に関わるケースもあるので注意が必要です。

無自覚性低血糖は、Bさんのように10年以上糖尿病の薬物治療を行っている方に起こりやすい症状です。対策としては、常に自身の血糖値を把握し、数値を見て対処するしかありません。

最近は腕に取りつけて24時間連続で血糖値が測定できる機器も保険適用されています。気になる方は主治医に相談されてはいかがでしょうか。